

2014 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	小林 謙一		
NAME	Kobayashi keniichi		

1. 研究課題

(和文) 縄文集落のセツルメント研究

(英文) Study of the settlement-archaeology on the Jomon Society.

2. 研究期間

1 年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

先史時代日本列島の縄文時代を中心に、縄文竪穴住居・集落遺跡の研究をおこなった。関東地方の大橋遺跡の以前に調査した資料の研究や、大日野原遺跡、滝坂遺跡の発掘調査、愛媛県の上黒岩岩陰遺跡周辺の分布調査をおこなった。東京都目黒区大橋遺跡では、縄文中期加曽利 E3 式期の複数住居群出土炭化物、神奈川県相模原市大日野原遺跡では重複する 4 軒の住居出土炭化物の炭素 14 年代測定をおこなった。東京都三鷹市滝坂遺跡では土器付着物の測定をおこなった。縄文草創期早期の愛媛県久万高原町上黒岩第 2 岩陰遺跡では層位的に出土した炭化物を測定したが、予想された出土土器からみた居住年代よりもやや新しい測定結果であり、居住が複数回にわたるか今後の検討が必要となった。以上の遺跡以外にも、複数の集落遺跡から、火災住居出土炭化材など、測定対象の資料を得ることができた。それらの測定を較正年代などで検討した結果、大橋遺跡や大日野原遺跡の住居出土試料の炭素 14 年代測定などから、以前に大橋遺跡出土事例で検討した 1 軒の竪穴住居の利用期間を 13 年ほどと推定したことが検証できた。また、いくつかの集落遺跡で 200-300 年間ないしそれ以上の集落の継続期間（間に断続を挟む可能性はある）を確認することができた。さらに、居住以外の文化様相（生業など）や、特に朝鮮半島先史文化との比較検討を進めた。

(英文)

I had studied of the settlement-systems on the Jomon villages. I had discussed to the time span of the reconstruct of the pit-houses. The targets of the study are Ohashi site, Obinoppara site, Takisaka site and Kamikuroiwa site, and the case example of radiocarbon-dating for the samples excavated from the soil covering of pits is examined. In consequence of this study, the average life span of pit-house is around 13 years, in Kanto region. Result of this dating-study could be estimated at that time span of residence of a typical Jomon settlement in Kanto region, is measured about 200-300 years.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<b>【学術論文】</b> （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
小林謙一「弥生移行期における土器使用状況からみた生業」『国立歴史民俗博物館研究報告』第185集, 国立歴史民俗博物館（千葉）, 査読有, pp.283-347, 2014/2
小林謙一「日本海をめぐる新石器時代の年代対比のために—水多里貝塚出土土器付着物の炭素14年代測定—」『紀要』史学第60号, 中央大学文学部（東京）, 査読なし, 2015/3（予定）,
<b>【学会発表】</b> （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
小林謙一「炭素14年代測定による先史古代竪穴住居の構築状況の研究」日本文化財科学会第31回大会, 2014/7/6-7, 奈良教育大（奈良）
小林謙一・坂本稔・米田穰「縄紋時代草創期から早期の年代と文化変化」日本考古学協会第81回総会, 2015/5/24 予定, 帝京大学（東京）
<b>【図 書】</b> （著者名、出版社名、書名、刊行年）
中央大学人文科学研究所編（共著）『島と港の歴史学』中央大学出版部（東京）, 小林謙一「縄紋丸木舟研究の現状と課題—年代的な位置づけを中心に—」2015/3 予定
<b>【その他】</b> （知的財産権、ニュースリリース等）